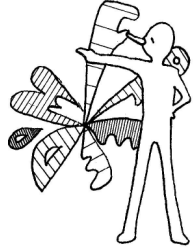


# Freedom



高校生の人権広報誌

## “Freedom” 第10号

2012年10月11日発行

編集 “Freedom” 編集スタッフ

発行 奈良県高等学校人権教育研究会

毎月11日は「人権を確かめあう日」



東日本大震災、豪雨による水害により被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。

人権作文集『ひとりひとりの願いを』第51集では、たくさんの人が被災地支援の活動や震災、原発事故に関する体験を文章にしてくれました。活動を通じて学んだこと、気づいたことから、継続的な支援、今できる支援について、考えていきましょう!!

### 人権についてく〜ビネオ鑑賞より〜

奈良情報商業高校・人権クラブ

私は『ホームタウン』というDVDを学校で見て、日本で暮らす日コリアンや、ニューカマー（新渡日者）についての勉強をしました。

その内容は、主人公の「朴英美（パク・ヨンミ）」さんが看護師として働いている病院に、戦前生まれの垣内さんという男性患者が入院してきます。朴さんは、垣内さんを担当することになるのですが、本名で「朴」と書かれた名札を見た垣内さんは……。

また、保育士の真紀さんも登場します。彼女もフィリピン出身のお母さんとの関わりで色々悩みを抱え込んでいきます。そんな二人が、様々な困難にぶつかりながらも、家族や周囲の人達を巻き込んで、差別や偏見という心の壁を打ち壊し、お互いの心と心をつないでいこうとします。題名に『ホームタウン』とあるように、「地域で暮らす」とは何かを問いかけた内容の作品となっています。

この作品を見るまでの私は、単純に『韓国人なんだから、日本にいても胸を張って本名を名乗ればいいのじゃないか』と思っていました。しかし、垣内さんや他の看護師さんのように、韓国・朝鮮人というだけで、特別な目で見たり差別をしたりする人がいて、「通名」（日本名）で暮らすことを余儀なくされている人が多いことを知りました。その反対に、『日

本で暮らすなら「日本名」を名乗ったら』としたりもしたのですが、ありのままの自分を隠して生きていくことの辛さや悲しさも理解できませんでした。

この感想を書いたのには、もう一つ大きな理由があります。それは、知人の中に在日コリアンがいるからです。その人は、祖母の代から日本に住んでいて、日本で生まれ育ったことから、国籍以外は普通の日本人と何ら違いはありません。その知人が結婚することになった時、相手の親から『日本で生まれても韓国人は韓国人だ。』『うちの子とは絶対に結婚させない。』と猛反対されたそうです。しかし、二人は親の反対を押し切って結婚をしました。今では子どもにも恵まれ、ごく普通の幸せな家庭を築いています。でも、反対した親とは今でも仲直りは出来ていません。このDVDを見ている途中、知人のことを思い出して、何とも言えない気持ちになり、この文章を書くことにしました。

みなさん。結婚って何でしょう。か。幸せって何でしょうか。国籍や生まれが違うことはダメなことでしょうか。友達やパートナーになったり、人を信頼したり、好きになったりする基準は国籍でしょうか。生まれではないでしょうか。私は、決してそうではないと思います。自分らしく、ありのままの姿で生き、それをお互い

に理解し、尊重し、ともに生きることが大切だと私は思います。外国人に対する差別だけでなく、障害者、女性、高齢者などに対する差別などが一日も早くなくなることを願っています。

※一九一〇年に、朝鮮（大韓帝国）が日本の植民地とされて以来、多くの人が、さまざまな理由で渡日し日本で暮らしました。きびしい差別を受けた人もおり、一九四五年の日本の敗戦後、多くの人が本国に戻りましたが、生活基盤のある日本での定住を選択した人もいました。これらの韓国籍、朝鮮籍（韓国籍を取得しない人の籍で、北朝鮮の国籍ではない）、あるいは、日本国籍を取得後も、自らのルーツを朝鮮半島におく人々を総称して「在日コリアン」と呼んでいます。今日では、日本で生まれ育った二世・三世が多く、全国におよそ五〇万人（韓国籍・朝鮮籍の人数のみ。日本国籍の人はこの数倍いると考えられます）が暮らしています。また、このような歴史的背景をもつ人々とは別に、近年、中国・ブラジル・フィリピンなど多くの国から渡日し日本で暮らす人々を「新渡日者」と呼んでいます。

※『ホームタウン 朴英美（パク・ヨンミ）のまち』は、二〇〇七年度、大阪府教育委員会企画、東映（株）教育映像部制作の人権教育啓発映画（五四分）で、二〇〇八年三月にテレビ放映されたものです。各校のホームルームで視聴した人も多いと思いますので、見た感想等も寄せていただければうれしいです。

### 高解研 夏期研修会 参加体験記

私たちは、七月二二日、七校十九名のメンバーで、滋賀県立琵琶湖博物館に行ってきました。とても広く、場所もジャンルによって分かれており、水族館も併設されていてびっくりしました。

その中でも印象に残ったところは、昭和のレコードや漫画・その時代に活躍したスターの写真などがたくさんある場所です。私には全然知らない物や見たことがない人物ばかりでしたが、昭和生まれの先生や親世代の方の中には、懐かしく思う人もたくさんいると思いました。

また、水族館では、淡水に住むカニやチョウザメなどたくさん魚類・水生の生き物が展示されていて、元気に泳いでいたところが印象的でした。

そして、リンを含んだ合成洗剤の環境への悪影響とそれに対する滋賀県の取組や、琵琶湖に近い原子力発電所の問題などの勉強をして、私たちが自分達の生活環境を守ることが人権を尊重することにつながるという思いを持ちました。

今回は、いろいろな勉強を楽しく行うことができ、有意義な一日となりました。

（榛生昇陽高校三年 中西 美香）



# 犯罪二次被害と無関心

～ 添上高校スタッフより ～

連日、日本のどこかで犯罪事件が発生し、その報道をよく耳にします。犯罪(殺人・強盗・放火・詐欺 など)によって被害者やその家族と関係者は身体的・精神的・経済的に大きな悪影響を与えられています。そんな中で被害者の人権が守られているとは言い難く、深刻な問題が生じています。被害者は直接的な犯罪の他に、報道やインターネットによる個人情報の流出・嫌がらせや中傷などの「二次的被害」を受けています。この二次的被害が、被害者を更に苦しめる要因になっています。

2012年4月23日、京都府亀岡市で集団登校中の児童9人と保護者の女性の列に無免許の18歳の少年が運転する車が突っ込み、妊娠中の女性と児童2人の計4人が死亡する事件が発生しました。この事件の最中、小学校教頭と警察官が加害少年の父親に被害者の情報を無断提供するという問題が発生しました。

このように、情報を所持している者は、その情報を簡単に流出させることができます。その軽はずみな行為によって人権が侵害され、傷つく者がいます。だからこそ、情報を所持している者は、その責任を全うする必要があると、自分は思います。加害者(特に未成年者)のプライバシーが法的に保護されるのに対し、被害者の個人情報「だけ」が流出する事も大きな問題になっています。

また、被害者の実名が報道される事が多いのに対して、加害者の実名は報道されない事がよく見られます。被害者と加害者……どちらも同じ人間だから「人権」が保障されるべきです。

にもかかわらず、守られるべき被害者の人権が、なぜ守られていないのでしょうか。犯罪被害者の支援については、「犯罪被害者等基本法(資料1)」が制定され、毎年11月25日から12月1日は「犯罪被害者週間(資料2)」とされています。

しかし、それにもかかわらず、被害者への二次的被害が残っています。二次的被害を減らすには、この問題が他人事でない事を理解する必要があります。「自分には関係ない」などの無関心が二次的被害を助長する要因になっています。その無関心が軽はずみな発言や噂話につながり、個人情報流出やプライバシー侵害となります。「無関心」という意識を改める事が求められています。

(添上高校解放研3年 藤原 凌)

※ 資料1 (内閣府ホームページより一部要約)

・ 犯罪被害者等基本法 (2005年制定)

犯罪被害者等のための施策を総合的かつ計画的に推進することで、犯罪被害者等の権利・利益の保護が目的。

国・地方公共団体が行う必要がある施策は多数ある。

※ 資料2 (内閣府ホームページより)

・ 犯罪被害者週間

(犯罪被害者等基本法成立日の12月1日以前の1週間)

11月25日から12月1日の集中的な啓発を通じて、犯罪被害者の状況・名誉等の重要性について国民の理解を深めることを目的として制定された。

## 高解研 研修・交流会 参加体験記

二〇一二年六月一七日、第一回の高解研 研修・交流会が、十校二四名の参加により、桜井市まほろばセンター研修室で開催されました。

午前中の研修では、車イスを用いたバリアフリー体験が行われました。一見簡単に思える車イスですが、「言うは易(やす)し行(な)うは難(むづ)し」ということわざ通り、実際に体験すると操作や補助に苦労しました。

食事を通じた交流会の後には、各校の意見交換会が行われました。この意見交換会では、児童虐待やDV(ドメスティックバイオレンス)、デートDV等、各校が取り組んでいる問題についての意見を聞く事ができました。他にも、人権に関する映画・音楽の鑑賞等、各校の活動についての発表がありました。

特に印象に残ったのは、高田高校ヒューマンハート委員会の発表として、ケツメイシの「仲間」という曲を聴いたことです。この曲は仲間の大切さを歌った曲で、聴くと改めて仲間の大切さに気づく事ができ、心が温かくなりました。

この意見交換会に参加して、今までに気づけなかった視点から物事を考察する事ができると同時に、自分の学校とは異なる活動についての発表を聞いて、新たな知識を身につける事ができました。

この研修会をこれからの生活に活(い)かしていこうと思います。

(添上高校解放研3年 藤原 凌)

午前中の車椅子体験とバリアフリーについての研修会に続いて、お昼には調理実習を行い、コリアン料理のピビンパを作りました。ピビンパは、コリアン料理の中でも、世界中で多く食べられているもので、一つの入れ物に色々なナムル(野菜の和(あ)え物)を入れ、一緒に混ぜて食べることで一体感を作り出す食べ物です。ピビンパを作ってみて、野菜の長さ、太さをそろえて切ったり、焦げないように煮たりすることなど、思ったよりも難しく大変でした。でも、同じ班の人と先生の協力もあり、思った以上に上手く作る事ができました。盛りつける際にも、彩りよく鮮やかに盛りつけることができました。一層おいしくできました。

先生方からは、かき玉汁を出して頂き、ピビンパと一緒にいただいたので、とてもおいしかったです。みんなで協力し合って本当によかったです。調理実習では、ピビンパを作ったり、食べたりしながら、他校の生徒とも楽しく交流できました。その中には、中学校のときの親友もいて久しぶりに会えて嬉しかったです。

午後からの意見交換では、高田高校や添上高校、榛生



### 高校生の人権広報誌

“Freedom”第10号(2012年10月11日発行)

編集 “Freedom”編集スタッフ

発行 奈良県高等学校人権教育研究会

〒630-8133 奈良市大安寺1-23-1

奈良県解放センター内

TEL 0742(62)5555 FAX 0742(62)5568

E-mail kodokyo@kcn.ne.jp

HP <http://www1.kcn.ne.jp/~kodokyo/>

※ご意見・ご感想や投稿などは、各校人権教育担当の先生または上記までお寄せください。

※本誌のバックナンバーは、高人教ホームページの「活動報告」にて閲覧できます。(「高人教」で検索してください)

※本誌の発行は奈良県教育委員会の事業委託を受けています。

### 編集後記

◆今年度の編集スタッフは、奈良情報商業高・高田商業高・榛生昇陽高・添上高・青翔高の五校十名でスタートです。よろしくお願ひします。

昇陽高校が前に出て、人権についての活動報告がありました。添上高校では、無差別殺人事件などの被害者の人権について勉強している報告があり、加害者よりも被害者の個人情報や報道されることについての問題提起がありました。このことは、他人事ではないことなので、改めて考えさせられました。バリアフリー体験や、調理実習体験など、こういう機会を持ち、参加することができて本当に有意義な一日を過ごすことが出来ました。次回も是非参加したいと思えます。みなさんも一度気軽に参加してみませんか。

(奈良情報商業高校二年 濱脇 綾香)

※「高解研」は奈良県高等学校解放研等連絡会議の略称です。